



市 政 執 行 の

所 信 表 明

平 成 3 0 年 5 月

名 寄 市

【はじめに】

本日、平成30年第1回名寄市議会臨時会の開会にあたり、市民の代表である議員各位を前に、私の3期目の市政運営にかかる所信の一端を申し述べる機会をいただきますことに、心から感謝申し上げます。

このたびの市長選挙におきまして、無投票という結果で再選を果たすことができましたことは、市民の皆様のあたたかいご支援の賜物であり、私の2期8年間の取組に対する評価と、今後の市政運営に対する期待感の表れと受け止めており、身に余る光栄ですが、期を重ねるごと、その責任、職責の重さに改めて身の引き締まる思いです。

市長就任以来、総合計画を市政運営の中心に据えながら、民間出身としての視点や発想、人脈、そして行動力を活かしたトップセールスと市民との協働により、地域の財産を磨き、市内外への情報発信に努めるとともに、市民の満足度の向上、明るく元気なまちづくりに向けて、全力を傾けてまいりました。

この間、合併10周年の節目も迎え、これまでまちづくりにご尽力いただきました議員各位をはじめ、多くの市民の皆様に、深く感謝を申し上げます次第です。

【2期目の取組について】

私は、2期目就任時の所信として、本市において、自主財源の割合が低く弾力性の低い財政構造となっていることに加え、合併に伴う普通交付税の特例措置の終了を間近に控え、厳しい財政運営が予想される中、10年先、20年先を見据え、健全な財政運営を基調に、基礎自治体として調和のあるまちづくりを進めるため、より計画的かつ効果的、効率的な市政運営に努めるとともに、民間の発想力とスピード感を持って、地域の資源と特性を活かしながら、本市をさらに明るく元気にするべく、3つの政治姿勢である『民間的発想での行財政運営』、『さらなる市民参加とよりわかりやすい行政運営・情報公開』、『地域の宝・財産・特色に徹底的にこだわったスケールの大きなまちづくり』を根底に据え、総合計画を政策の基本としながら施策を進めることを表明し、議員各位からご指導いただきながら全力で取り組んでまいりました。

平成29年度からスタートした名寄市総合計画（第2次）では、新たに3つの重点プロジェクトを掲げるとともに、数値目標を導入することにより目指すべき姿をわかりやすく表現することができました。また、地域の特色であり、財産でもある本市の冬につきまして、最大限優位性を発揮できるよう冬季スポーツの拠点化構想にも着手し、芽を出し始めたところであると考えています。

現在の社会情勢の変化や少子高齢化の急速な進行など、道北地域

にとって本市の果たす役割はさらに重要なものとなってきており、北・北海道の中核都市としての機能を強化していくため、私は、今後とも全力で市政を推進する考えです。

【3期目にあたっての基本施策について】

次に、3期目にあたっての基本施策について申し上げます。

我が国において、国内総生産をはじめ主要経済指標では、概ね全ての指標において増加傾向と予想されている中、人口減少や高齢化の進展により税収が減少する一方で社会保障関連経費は引き続き増加する見込みです。平成30年度の地方財政計画では、地方交付税において出口ベースで前年度比マイナス2パーセント、3,213億円の減少としており、地方自治体の財政は今後も厳しい状況が続くものと想定されるどころです。

本市の財政状況におきましても、平成30年度一般会計当初予算において、地方交付税は歳入総額の40パーセント強となっており、引き続き地方交付税に大きく依存する状況です。

このような情勢のもと、健全な財政運営を基調に、北・北海道の中核都市として都市機能を強化しつつ、市民との協働のまちづくりを推進するため、私は、総合計画の基本理念である「人づくり」「暮らしづくり」「元気づくり」の3つのまちづくりの理念を基本とし、

市政の発展に全力を傾注してまいります。

第一は、「人づくり」ですが、冬季スポーツの拠点化をさらに推進するため、ジュニア選手育成基盤の強化、冬季版ナショナルトレーニングセンターの誘致、検討など、この地の強みを活かした取組を積極的に展開してまいります。

国際交流については、これまでの交流の歴史を踏まえてさらなる推進をはかり、台湾交流については、友好都市締結も検討してまいります。また、2020年ホストタウン事業を推進し、本市の子どもたちのパスポート取得費用の助成を検討します。

地域コミュニティの醸成では人と人、地域のつながりをより強いものとするため、市内全小学校へコミュニティスクール導入に向けた準備を進めてまいります。

道北圏域においても大変重要な市内高等学校の維持については、さらなる支援拡充や、JR「名寄高校前」駅の設置などに取り組んでまいります。

名寄市立大学では、時代や環境の変化に対応した運営のあり方の検討を行うとともに、コミュニティケア教育研究センターを核とした地域課題との連携強化を進めてまいります。

陸上自衛隊名寄駐屯地につきましては、さらなる連携強化と体制

維持増強運動を継続してまいります。

第二は「暮らしづくり」ですが、子育て支援政策を加速すべく、公設保育所の改築、民設保育所設置への補助、放課後児童クラブの拡充、産後ケア事業の大幅拡充に取り組んでまいります。

高齢者支援政策では、生活支援ハウスの建設、戸建て住宅住み替え加速のための住宅改修施策、空き家バンク施策を推進し、高齢者の健康、生きがい、就労、交通対策、除雪対策の支援拡大を検討してまいります。

障がい者支援では、特別支援教育の充実、権利擁護、農福連携を推進し、地域医療関係では、名寄市立総合病院をはじめとする医療資源の堅持と、医療、介護、地域の連携、ICTネットワークによる名寄市版地域包括ケアシステムを推進してまいります。

道路インフラの充実では、高規格幹線道路の早期完成を目指し、各関係機関へ働きかけを積極的に行い、また、本市の位置的優位性を活かした「北・北海道物流拠点構想」の実現に向けた取組を進めてまいります。

廃棄物の適正な処理につきましては、広域中間廃棄物処理施設や衛生センターの更新計画を策定してまいります。

第三は「元気づくり」ですが、本年は、北海道命名150年、松浦武四郎生誕200年を迎え、天塩川と名寄市の情報発信を強化し、広域連携による各種関連イベントを実施してまいります。

あらゆる分野における人材確保においては、高校、市立大学、人材開発センター、各関係機関との連携を強化し、高齢者、障がい者、外国人の雇用拡大を図り、JA、民間企業と連携し、担い手支援、畜産クラスター支援などを目的とした農業生産法人の設立を目指します。

広域観光の推進では、鉄路、道路を活用した自転車周遊、魅力ある河川を活用したカヌーや釣り、ひまわり、道北地方の冬季における魅力を発信し、関係機関とともに多くの人々が訪れていただける地域を目指してまいります。

中小企業の振興では、設備投資への追い風となるよう、国の制度を活用し、固定資産税を3年間ゼロとする制度導入に向け準備を進めるとともに、中心市街地活性化については、人々が集う仕組みづくりや、無電柱化、ユニバーサルデザインの検討を進めてまいります。

北・北海道の中核都市である名寄市の機能強化では、拠点化構想を掲げさせていただきました。

近年全国的に自然災害が頻発している状況にありますが、災害に

強い高規格幹線道路の完成が見込まれることや、陸上自衛隊が本市に駐屯している強みを活かし、市民はもとより、圏域の安全・安心を維持していくための防災拠点整備構想を関係機関へ提案してまいります。

医療福祉環境につきましても、圏域では本市が中枢的な役割を果たしており、地域包括ケアシステム構築においても、本市が果たすべき役割は大きく、圏域の拠点として機能堅持を図ってまいります。

冬季スポーツの拠点化については、スキー大会などを天然雪で安定的に開催できる地域が世界的に減少してきており、総合計画重点プロジェクトでも取り組んできた拠点化事業を継続し、深化させていくとともに、広域観光では、圏域の魅力ある観光資源を発信し、当市を拠点とした滞在型観光の定着に向けて取組を進めてまいります。

生産空間の維持、物流の拠点化につきましては、北・北海道は優良な農畜製品の生産地であり、国においても重要な食糧生産基地でもあります。人手不足などにより、圏域における物流網の維持が課題となっていますが、生産品を安定的に出荷するため、効率的・効果的な物流網を形成する必要があると認識しています。

また、地域住民の生活では、自宅まで荷物が届く宅配サービスなどが定着していますが、人口減少により将来的には事業者の持続的

なサービス提供が難しい状況となる見通しもあることから、地域住民の生活環境を維持するためにも効率的な輸送体系の早期構築が必要であり、圏域住民の生活を支える物流拠点整備の可能性について、官民一体となって研究を進めてまいりたいと考えています。

【結びに】

以上、私の3期目の市政運営にあたっての所信を述べさせていただきましたが、今後とも、「公平・公正」の原則のもと、市民の皆様との対話を進めながら「自然の恵みと財産を活かし みんなでつくり育む 未来を拓く北の都市・名寄」を目指し、全力で市民の皆様の負託に応えてまいる所存です。

議員各位並びに市民の皆様におかれましては、今後の市政運営に一層のご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げ、私の3期目の市長就任にあたりましての所信表明といたします。